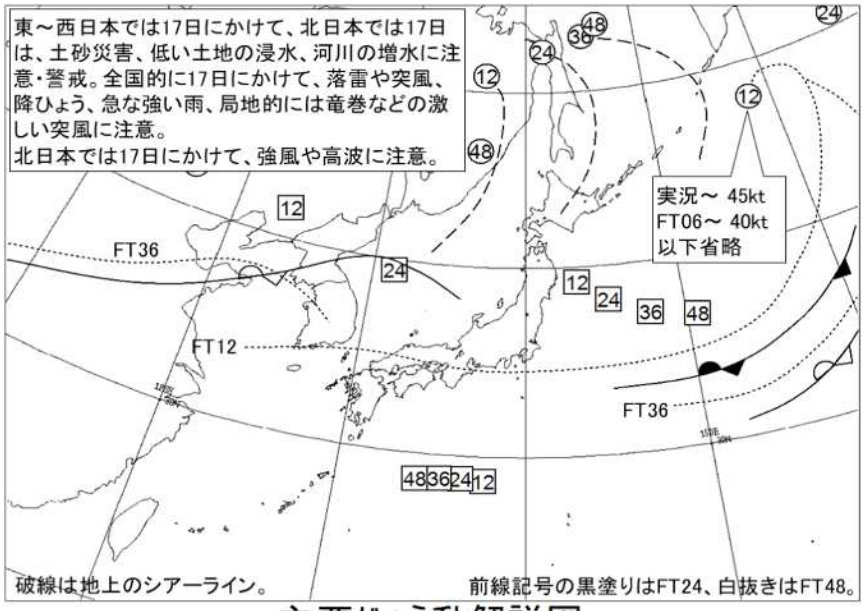
短期予報解説資料　２０２５年９月１５日０３時４０分発表

気象庁

１．実況上の着目点

① 500hPa 5940m付近の上空の高気圧に対応して、地上の高気圧が日本の南にほとんど停滞。

② 500hPa 5640m付近の寒冷渦に対応して千島近海を東北東進する発達した低気圧から、前線が日本の東～東日本太平洋側～西日本日本海側にのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、対馬海峡付近で雷を検知、激しい雨を解析。東日本でも雷を検知、やや強い雨を解析。北日本では、やや強い風が吹き波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

③ 沖縄の南を西進する上層寒冷低気圧（UCL）と①の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、南西諸島では雷を検知、激しい雨を解析。

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の日本の南の高気圧は、17日にかけて日本の南を西へ移動。西～東日本は17日にかけて、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。

② 1項②の低気圧は、15日夜にかけてカムチャツカの東に進む。前線は、本州付近では次第に不明瞭になるが、16日にかけて東～西日本付近は、2項①や日本の東の高気圧の間の気圧の谷となる。

③ 15日朝までにアムール川下流域付近で発生する低気圧が、16日にかけてオホーツク海に進み、低気圧からのびるシアーラインが北海道地方を通過する。

④ 17日は、500hPa 5700m付近で-12℃以下の寒気を伴うトラフに対応して低気圧が日本海北部から千島近海に進む。また、500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が日本海から北日本へのびる。

⑤ 1項③のUCLは16日にかけて南シナ海に進む。また、16～17日は、日本の南にある別のUCLが南西諸島付近に進む。

⑥ 17日にかけて、北日本では、上空寒気とシアーラインや低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、東～西日本では、日中の昇温と気圧の谷や前線に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では、上空寒気や2項①の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

⑦ 北日本では17日にかけて、2項③のシアーラインや2項④の低気圧の影響で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。強風や高波に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量(06時からの24時間)：九州北部100mm。② 波浪(明日まで)：北海道3m。③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

５．全般気象情報発表の有無　発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。